

OMU Students 海外留学レポート



氏名 竹元 奈央
所属 経済学部 経済学科
学年 3年

留学先 マラヤ大学
留学期間 2023/2/23~2023/7/22

留学レポート Study Abroad Report

私は2023年の2月から5月までの5か月間、マレーシアのマラヤ大学に交換留学をしました。この留学レポートではマレーシアがどんな国であるかということや、私が現地で学んだこと、経験したことについて話そうと思います。

〈マレーシアへの留学を決意した理由〉

私がマレーシアへ留学することを決めた理由として、まず一つ目にマレーシアの多様性あふれる文化を体験したかったこと、二つ目にイスラム教の文化についての理解を深めたかったこと、三つ目に英語と中国語の能力を伸ばしたかったことが挙げられます。

①多様性あふれる文化

マレーシアは宗教・民族ともに多様性に溢れており、民族であれば主にマレー系、中華系、インド系の人々で構成されています。また、マラヤ大学は様々な国からの交換留学生を多く受け入れているため、中国、韓国、ヨーロッパの国からの留学生とも交流することができます。そのような多様性のある環境の中で海外の学生と交流していると、日本で普通とされている考え方が他の国では通用しなかったり、反対に日本では異質だと思われる考え方が海外では当たり前だったりすることが多くあります。半年間毎日これまで経験したことのない考え方や文化に触れることで、多様な価値観はもちろん、「自分と異なる考え方を受け入れる力」というのが本当に身についたと実感しています。

②イスラム教

マレーシアで最も信仰者数が多いのはイスラム教です。学校や街中でもヒジャブを被った女性やモスクなどをよく見つけることができます。

ちょうど私の滞在中の3月22日から4月21日までラマダンの期間で、周りのイスラム教の友達は日が昇っている間断食をしていました。また、ラマダン期間が明けるとハリラヤという日本でいうお正月のような大きなイベントがあり、私もマレー人の友達の家に行って断食明けのお祝いをしました。



③英語と中国語

マレーシアの中華系の人や、マラヤ大学の中国からの留学生の人たちはみんな中国語が話せるので、その子たちとは中国語の練習をすることもできます。特に私の場合ルームメイトが中国人で、毎日中国語の会話練習をしてもらったので、中国語のスピーキング力はとても伸びたと思います。

マラヤ大学には韓国からの留学生も多くいるので、英語と中国語・韓国語を伸ばしたいという人の留学先として良いと思います。



〈授業〉

マラヤ大学では以下の4つの授業を取っていました。

1. Elementary Malay
2. Malaysian Economy in a globalized world
3. Maritime Economy in Southeast Asia
4. Political Development in Southeast Asia

どの授業も英語で行われました。授業を通して、東南アジアの経済や政治についての知識を深めることができました。

3,4の授業では、通常の講義に加えてチュートリアルという講義の内容についてプレゼンテーションを行ったり、ディスカッションをしたりする時間が週一時間設けられます。チュートリアルを通して講義の理解をさらに深めることができ、また英語で自分の意見を発表する力を身につけることができました。

〈英語力の変化〉

マレーシアに着いて、他の国からの留学生の英語力の高さが一番ショックを受けました。自分と同じように第二言語として英語を勉強しているにもかかわらずとても流暢な英語を話す友達に圧倒されて、最初は怖じ気づいていましたが、自分の彼らのように英語を話せるようになりたいと思い、友達からの遊びの誘いには必ずついて行くようにしたり、自分からご飯に誘ったりと積極的に英語を話す機会を増やす努力をしました。

〈生活〉

マレーシアでは International House という大学の寮に住んでいました。私たちの部屋には日本人2人、中国人2人の計4人が住んでいました。生活の中で中国人の友達と暮らす中での生活や大学のことについて教えてもらったり、一緒に中国料理を作ったり、また私たちも日本の文化について教えたりと、外国人と暮らすからこそできる体験というものをたくさんしました。

食事は自炊をするか大学の食堂で毎日ご飯を食べていました。食堂のご飯は非常に安く、一食大体7リンギット(=約210円)で済ませることができます。

→
チキンライスとオレンジジュースです。マラヤ大学の食堂のジュースはこれまで飲んできたどのジュースよりもおいしかったです。



